

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520398

研究課題名(和文)南北朝から隋唐に至る楽府の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic study on YUEFU in Nanbeichao and SuiTang Period

研究代表者

佐藤 大志 (SATO, TAKESHI)

広島大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：90309625

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：「楽府」とは、本来音楽を掌る官署の名称だったが、後に楽曲の歌詞の呼称となり、一つの詩体の呼称ともなったものである。本研究では、まず中国の魏晋南北朝隋唐期の諸テキストに見える「楽府」に関する言説資料を収集し、楽府研究の基礎資料を整理することを試みた。そして、この基礎資料の分析を通して、中国中世期に於ける「楽府」に対する認識の変容を明らかにし、そこから特に魏晋期の「詩」と「楽府」との関係、音楽と詩文との関係について考究した。

研究成果の概要(英文)："YUEFU" was originally the name the government office in charge of music, but it came to designate the lyrics of songs and also a style of poetry. In this study, I collected the discourse materials on "YUEFU", seen in the various texts of the WeiJinnanbeichao and SuiTang periods of China, organized the basic data on "YUEFU" research, as well as analyzed the material. By doing so, I elucidated the transformation of the awareness of "YUEFU" during the Middle Ages of China, based on which I examined the relationship between "POETRY" and "YUEFU" and that between music and poetry, particularly during the Wei and Jin Dynasties.

研究分野：中国文学

キーワード：中国中世文学 楽府文学

1. 研究開始当初の背景

申請者は、「六朝楽府詩の展開と楽府題」(1997)、「梁陳の文学集団と楽府題」(1997)などの論文において、南北朝期の楽府詩は、楽府詩の題名を用いて制作されていたこと、その楽府詩に対する認識は、西晋以前の楽府詩とは異なっていたこと、また楽府詩が集団の文学遊戯として用いられたことにより、楽府詩の題名を用いる制作方法が定着していったことを考証した。また「鮑照楽府詩の特質」(1995)では、魏晋から南北朝に至る楽府詩の表現様式がどのように変遷していったのかを考証し、その過程の中で南朝期の楽府詩人鮑照がどのように楽府詩を制作していたのかを考察し、「鮑照の文学と制作の場」(1996)では、その鮑照の楽府詩がどのような「場」で享受され、その享受の「場」が彼の文学にどのような影響を与えたのかということ考察した。そして「崔豹『古今注』音楽篇について」(1999)では、後世に楽府詩の由来を解説した書物として重要視される、西晋期の崔豹『古今注』の音楽篇が、南北朝期には全く参照された形跡が無いこと、これが重要視されるのが盛唐以降であることを考証し、そのことが、南北朝期と盛唐期の楽府詩に対する認識の差異を示していることを論じた。これらの諸論文は、2002年度に文部省科学研究費補助金・研究成果公開促進費(課題名:南北朝楽府文学史研究)の交付を受けて出版した(『六朝楽府文学史研究』溪水社・2003)。

その後、2002年度～2004年度科学研究費基盤研究(B):課題名「六朝の楽府と楽府詩」(研究代表者:釜谷武志〔神戸大学・文学部・教授〕)の研究分担者として参加し、文学・歴史・思想等の各領域の研究者と共に、『宋書』楽志一の詳細な考証と訳注作成の共同研究に参加する機会を得た。共同研究会の席上では、各領域の研究者から多くの知見が提供され、多角的な視点から検討が繰り返さ

れ、毎回多くの発見と課題が提示された。申請者も、この共同研究会の席上での議論に基づき、「六朝期江南社会の東と西 『宋書』楽志の記述をめぐって」(2005)では、東晋王朝期の宮廷音楽復興の過程と、当時の江南社会に於ける東と西の文化的交流との関係について論じ、「六朝楽府文学の展開と声律論」(2005)では、東晋期の楽府断絶と、五言詩の韻律が理論化される過程との関係について論じた。更にその継続研究として、2006年度～2009年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「南北朝の多角的研究」の研究代表者として従事し、『隋書』音楽志上・中・下の訳注作成を中心として、南北朝後期から隋王朝に至る楽府制度の変遷を明らかにした。この共同研究において、南朝と北朝の楽府、それぞれの系譜を解明し、それが隋王朝の南北朝統一によって、どのように衝突し、また統合されてゆくのかということ解明した。

以上の個人研究と共同研究の過程で、申請者が困難を感じたのは、「楽府」又は「楽府詩」に関する当時の史料が十分に整理されておらず、その時代の楽府又は楽府詩に対する実態及びそれに対する認識が把握できていないということである。この時期の文学や社会・政治に大きな影響を与えた楽府及び楽府詩を理解するうえでは、まず当時の史料から楽府・楽府詩に関する言説を収集・整理したうえで、その分析を行う必要がある。

2. 研究の目的

申請者がこれまで個人研究のテーマとしてきた南北朝期の楽府文学の展開に関する研究、及び共同研究で携わってきた『宋書』楽志・『隋書』音楽志の訳注稿作成を中心とした南北朝から隋に至る楽府制度の変遷に関する研究に基づき、これをさらに発展させて、南北朝から隋唐に至る「楽府」の史的展開を解明することを目的とする。この研究を

「南北朝から隋唐に至る楽府の基礎的研究」と題し、南北朝隋唐期の諸史料から「楽府」に関する言説を収集・整理し、その成果に基づいて、「楽府」という視座から中国中世の社会及び文学とその展開に迫ることを、具体的な研究活動とする。

3. 研究の方法

(1) 南北朝隋唐期の文献に於ける楽府・楽府詩に関する言説の収集

南北朝隋唐期の楽府と楽府詩をめぐる諸問題を考えるための基礎的作業であり、本研究の中核課題に位置付けられる。具体的には、『晋書』『宋書』『南齊書』『梁書』『北齊書』『周書』『南史』『北史』『隋書』『旧唐書』『新唐書』などの歴史書、『全上古三代秦漢三國南北朝文』『先秦漢魏晉南北朝詩』『全唐文』『全唐詩』などの詩文集、また『藝文類聚』『初学記』『太平広記』『太平御覧』などの類書について、各種のデータベースを駆使して、楽府・楽府詩に関する言説を収集する。

データの収集については、広島大学大学院教育学研究科の大学院生に協力を依頼し、担当者ごとに分担領域を定めて作業を行うこととする。

(2) 南北朝楽府関係資料の収集と整理

陳の釋智匠の編にかかる『古今樂録』をはじめとして、南北朝から唐にかけての楽府関係資料はきわめて重要でありながらほとんど散逸して、今日では『太平御覧』等の類書や『楽府詩集』等に断片が採録されるのみである。こうした資料を収集し整理し、楽府研究に不可欠な基礎資料を提供する。

(3) 楽府詩の創作面・表現面からの研究

儒学の古典が、楽府詩創作をどのように規制し、また影響を与えてきたのかを明らかにする。南北朝期の戦乱等により楽府詩のメロディーが失われて復元を試みる際に、儒学の古典は常にここに関わってくる問題であり、また古典の引用ならびに典故を踏まえた表現の変化は、擬古楽府詩の出現と流行と密接な

関連がある。また祭祀歌謡の歌辞と擬古楽府詩との表現面に於ける差異、楽府詩と詩との表現面に於ける差異を分析することによって、当時の文人が楽府詩をどのように捉えていたのかということ、表現の面から明らかにする。

(4) 楽府の制度的側面の研究

南朝と北朝の各王朝に、宮廷音楽の沿革を整理し、各王朝が雅楽と俗楽をどのように弁別し、価値づけているのかを検討する。各王朝の雅楽と俗楽が、制度上どのように定義され、分類されているかを整理して、制度の面から南北朝隋唐期の楽府の性格を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 南北朝隋唐期の文献に於ける楽府・楽府詩に関する言説の収集

当初の計画通り、南北朝隋唐期の文献から「楽府」に言及する資料を収集することができた。楽曲の歌詞としての「楽府」は、西晋期の文献より見るとの指摘はあるが、今回の調査の結果では、楽曲の歌詞としての「楽府」の西晋期の用例は一例のみであり、他はすべて音楽の官署の意で用いられており、楽曲としての歌詞の意で「楽府」が用いられ始めるのは、劉宋期以降であることが分かった。

(2) 南北朝楽府関係資料の収集と整理

当初は、南北朝末期の『古今樂録』の収集・整理を予定していたが、(1)の資料収集及び分析の結果、『古今樂録』以前、南北朝初期の『文心雕龍』の分析を先に進め、その記述に基づきながら魏晋期の楽府に関する資料の収集と整理を先に行った。その結果として南北朝初期に至るまでの楽府に関連する資料の収集と整理を行い、魏晋から南北朝初期に至る「楽府」の言説状況を明らかにした。また魏晋期以前については「楽府」という語の用例そのものが少ないため、詩と音楽との関係について述べる資料も併せて収

集した。

(3) 楽府詩の創作面・表現面からの研究

(1)(2)の結果に基づき、南北朝初期の『文心雕龍』楽府篇の記事に焦点を当てて、分析を試みた。同書は楽府作家や『文選』の編纂者とは異なる楽府観が見られると従来から指摘があるが、本研究ではそれを、魏晋南北朝期の「楽府」の言説状況に位置づけることを試みた。その結果、『文心雕龍』楽府篇の記事は、『詩経』や『礼記』などの古典における詩と楽との関係が、魏晋期に大きく変化したことに基づくものであること、また東晋期に楽府詩のメロディが失われたことにより、詩と音楽との関係が大きく変化せざるを得なかったことが、楽曲の歌詞としての「楽府」と、歌われなくなった「詩」との境界を生み出したこと、そして『文心雕龍』楽府篇はそのような「楽府」の状況を説明しようとした最初期の資料ではなかったかと結論づけた。

(4) 楽府の制度的側面の研究

楽府の制度的側面については、2002年度～2004年度科学研究費基盤研究(B):課題名「六朝の楽府と楽府詩」(研究代表者:釜谷武志〔神戸大学・文学部・教授〕及び2006年度～2009年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「南北朝の多角的研究」(研究代表者:佐藤大志)の成果に基づき、『宋書』楽志と『隋書』音楽志の記述を比較対照し、南北朝初期と隋唐初期の音楽制度としての「楽府」に対する認識の差意についての分析を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

1. 佐藤大志、魏晋期の楽府 『文心雕龍』楽府篇の記述をめぐって、富永一登教授退休記念論文集、査読無し、2015、印刷中

2. 佐藤大志、唐代の折楊柳 「折楊寄遠」から「折楊贈別」へ、国語教育研究、査読無し、56号、2015、244-258
3. 畑村学、橘英範、佐藤大志、張籍詩訳注(22)、宇部高等専門学校紀要、査読無し、60号、2014、24-41
4. 佐藤大志、都市の荒廃を描く文学 鮑照「蕪城賦」をめぐって、中国中世文学研究、査読有り、63・64 合併号、2014、20-35
5. 畑村学、橘英範、佐藤大志、張籍詩訳注(21)、宇部高等専門学校紀要、査読無し、59号、2013、39-55
6. 武井満幹、佐藤大志、支遁詩訳注稿(六)、東洋古典学研究、査読無し、35集、2013、87-120
7. 山寺三知、佐藤大志、長谷部剛、『隋書』音楽志訳注稿(六)、中国文学研究論集、査読無し、30号、2013、20-33
8. 佐藤大志、梁陳の「折楊柳」 攀折の「折楊柳」、中国中世文学研究、査読有り、60号、2012、25-47

〔学会発表〕(計 2 件)

佐藤大志、六朝期の楽府について 『文心雕龍』楽府篇の記述をめぐって、中国中世文学学会平成26年度研究大会、広島大学、2014.11.8

都市の荒廃を描く文学 鮑照「蕪城賦」をめぐって、六朝学会第26回例会、広島県立大学、2013.3.16

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 大志 (SATO, Takeshi)
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：90309625

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

釜谷 武志 (KAMATANI Takeshi)
神戸大学・文学部・教授
研究者番号：30152838

大形 徹 (OOGATA Touru)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号：60152063

佐竹 保子 (SATAKE Yasuko)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：20170714

川合 安 (KAWAI Yasushi)
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号 30195036

林 香奈 (HAYASHI Kana)
京都府立大学・文学部・准教授
研究者番号：30272933

柳川 順子 (Yanagawa Junko)
広島県立大学・人間文化学部・教授
研究者番号：60210291

狩野 雄 (Kanou yu)
相模女子大学・学芸学部・准教授
研究者番号：80333764

山寺 三知 (YAMADERA Mitsutoshi)
國學院大学北海道短期大学部・国文学科
・准教授
研究者番号：70352507

長谷部 剛 (HASEBE Tsuyoshi)
関西大学・文学部・教授